令和7年度　次世代創出PBL推進事業

実施報告書 【学校課題実践校用】

学校番号	41
学校名	富山県立富山聴覚総合支援学校

学校の現状と課題		本校では聴覚障害のある幼稚部から高等部までの幼児児童生徒と、軽度知的障害のある高等部の生徒が共に学んでいる。年齢差が大きく障害種も異なるが、一人一人がたくましく自分の人生を歩んでいけるよう、「生きる力」の育成を目指し、各学部で発達段階や年齢に応じて子供同士が関わり合う学習や問題解決の機会を設定してきた。子供たちは課題を共有し、自分の思いや考えを伝えようとする姿勢がみられるようになった。しかし互いの意見を聞いたりやり取りを重ねたりする中で、より良い解決策や学びを生み出す段階には至っていない。周りの人や自分自身との対話や協働的な学びを通して、思考を広げ、深め、それを伝え合い、より主体的に様々な課題や困難を解決しようとする力を育みたい。そのため教職員は、多様なコミュニケーション手段の活用、自己認識と他者理解、聴覚や知的障害等に関して研鑽を積み、専門性を高める必要がある。
テーマ（特色）		対話や協働により主体的に課題と向き合い、解決しようとする力を育む支援の在り方
設定した「テーマ」の達成状況		＜幼稚部＞ 日頃の様子を観察したり、検査を利用したりし実態把握を行い、言語力や発達段階、得意なこと苦手なこと等を幼稚部職員で情報共有し、期待する姿について共通理解を図った。興味関心に沿った遊びの内容を設定し目標に応じて支援できたことで、意欲的に遊ぶようになった。 ＜小学部＞ 授業研究を通して、児童の実態に合わせた単元の取り上げ方の工夫や手話を併用して話すことの良さ、語彙が少ない児童への手話を使った学習の仕方等について学ぶことができた。 ＜中学部＞ 生徒の実態を把握し、情報共有を行い効果的な場面設定を検討し、やり取りや話合いの事前指導と振り返りを行った。生徒は自分の意見を具体的に理解してもらうために画像や図等を用いて説明する様子がみられるようになった。 ＜高等部＞ 具体例を示したり、その先の行動の選択肢を示したりしてワークシートに記入できるよう導いた。日誌の様式の見直しを行ったことで、これまでより具体的な振り返りの記述が多くみられるようになってきた。また、自己評価と教師からの評価の差に気付いたり、指導されたことを思い出したりして、具体的に振り返りをする姿がみられた。
実施内容 （具体的に記入する）		①各学部でテーマから実態に応じた研究主題をそれぞれ設定し、支援の在り方について授業研究や事例研究に取り組んだ。 ②外部講師を招いた校内研修会を実施し、授業参観後に各学部と全体への指導助言をいただいた。支援方法や授業改善、研究の進め方等について具体的に助言をいただき、各学部の研究や指導に生かした。 ③年に2回、校内研究報告会を行い、学校全体で各学部の研究について共通理解をする機会を設け、各学部間の連携を図り、学校全体でテーマに向けて取り組んだ。 ④学部研究に関わる書籍や教材等を購入し、幼児児童生徒への支援に生かした。
取組による成果 （プロジェクト学習推進の観点から）		学校全体のテーマや各学部の研究主題に関わる外部講師を招聘し、講演や授業参観と指導助言をいただくことで、幼児児童生徒の実態に応じた支援の在り方について研鑽を積むことができた。障害や幼児児童生徒の特性に関する専門性を向上させ、日々の指導・支援に生かすことができた。書籍等の購入により必要に応じて支援の参考にすることができた。
対象者（学年・人数など）		幼児児童生徒35名（幼稚部3名、小学部7名、中学部4名、高等部21名）
実施実績	4月	①学校課題委員会　学校課題の共通理解　各学部研究の計画立案
	5月	①学部研究　②外部講師による指導助言、講演
	6月	①学部研究　授業研究　②外部講師による指導助言、講演
	7月	②外部講師による指導助言、講演
	8月	①校内研究中間報告会
	9月	①学部研究　②外部講師による指導助言、講演
	10月	①学部研究
	11月	①学部研究
	12月	①学部研究
	1月	①学部研究
	2月	③校内研究発表会
	3月	①学部研究